

http://www

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜医看学発 第9巻 第2号

2023年 冬号

浜田医療センター附属看護学校

学校祭・・・1P～2P

69期生(2年生)浜田医療センターガイダンス・・・4P

69期生(2年生)浜田駅鉄道部総合事故対応訓練に参加して・・・5P

70期生(1年生)ナーシングセレモニー・・・7～8P

第68回 卒業式・・・10P～11P

学校祭(特別講義を聞いて)・・・3P

防災教育・・・6P

地域包括における看護を考える・・・9P



第68回 卒業式

独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター附属看護学校
TEL0855-28-7788

〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12

mail : kanri-t@hamakan.nh.jp

—「資料請求」は公式HPから—

https://hamada.hosp.go.jp/kango/index_00001.html

※その他ご不明な点などありましたら、お気軽にお問い合わせください。



スマホを
ご利用の方は
こちらから

発行責任者
編集責任者
編集

飯田博
花子紀子
隈部直子
崎本美子
岡本諭
尾川ひとみ
岩成美樹
木屋佳奈恵

畑中美保
平田洋子
前田こずえ
三家本八千代
岩本悦子
金山和正



～2022年度 学校祭～

学校祭実行委員

今年の学校祭のテーマは「進～新しいことへの挑戦～」でした。コロナ禍でも新しいことへ挑戦したく、全校・教職員でのビッグアート作成を企画しました。全校・教職員で一つの作品を完成させることで一体感が得られ、思いが詰まったビッグアートが完成しました。コロナ禍のため、地域の方々とふれあうことはできませんでしたが、地域の方々と協力しプルタブを多く集めることができ、地域と連携している学校であることを再認識する機会になりました。

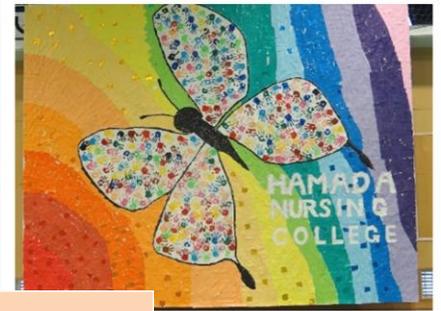


ビッグアート担当

今回、ビッグアートという初めての企画に挑戦して、学生との繋がりを深め、大きなものを全員で完成させる達成感を感じることが出来ました。

イメージしたのは大空を飛ばたく蝶々で、そこに先輩や副リーダーの意見で羽根を学生全員と教職員の方の手形にするという案が出たおかげで、最初の案よりもさらに良いものをつくることができました。

学校祭終わりには、各学年や友達同士のフォトスポットにもなり、とても素晴らしい出し物にすることが出来ました。企画の計画や準備はとても大変でしたが完成するととても良いものができ、看護師に必要なチームで協力する力も得られました。来年もビッグアートの企画ができれば良いなと思いました。



学生・教職員全員の手形で大きな蝶が出来上がりました！！

クイズ担当

学校祭の企画の一つとして、地域や学校に関するクイズを作成しました。作成にあたり、自分達が住んでいる地域や普段過ごしている学校について、楽しみながら関心を持ってもらうことをねらいとしました。昨年度好評だった先生方に関するクイズのほか、今年度は新しい取り組みとして、3学年に対し事前アンケートを実施し、学生に関するクイズも出題しました。クイズの作成は大変でしたが、楽しかったという感想が聞けてよかったです。



オンラインでクイズをしました



クイズで高得点！商品をゲット！！



プルタブ担当

今年も学校祭の企画でプルタブ集めを行いました。

今年のプルタブ集めは学校内だけではなく浜田駅にもプルタブ収集ボックスを設置させていただき、駅員さんや地域の方にもプルタブ集めに協力していただきました。

この企画を通して感じたことは最近では地域との関りが昔より少なくなっていて、そのうえ新型コロナウイルスの影響で地域での活動やイベントなどが減少したことで、より地域と関わる機会が少なくなっているため、今回のように間接的ではありますが地域の方々と関わる事ができる企画ができてよかったです。

フリーマーケット担当

フリーマーケットの開催は初めてで、感染に配慮しながらの開催は大変でしたが、先生方や学生の笑顔がたくさん見ることができて、本当に一生懸命企画を考えてよかったです。また、時間が限られている中での企画を考えて開催するのはとても難しかったです。先輩方からの意見を頂きながら学年の垣根を越えて係のみんなと活動できたことは自分にとっても貴重な経験になり、学校祭が終わってからの達成感は大きかったです。これから、領域別実習が始まりますが、患者さんの気持ちを第一に考え、積極的に動けるように学校祭での経験を活かしていこうと思います。



各学年催し物を計画♪



フリーマーケット♪♪

出し物担当

学校祭に向けての準備では、1番初めに考えていた企画が考え直しになり一から考え、各学年がどんな企画をするのかも把握しながらの企画の再立案だったので、とても大変で途中で投げ出したくなったこともありましたが、しかし、当日までの学年での準備や当日の発表はとても楽しく、全学年が楽しめた時間になったのではないかと思います。来年はどんな学校祭になるかわかりませんが、また全学年で楽しめる時間を過ごせたらいいなあと思っています。

～2022年度 学校祭（特別講義を聞いて）～

広島大学客員教授 医学博士 田中公夫先生をお招きし、「放射線の性質と医療放射線被ばくについて」御講義いただきました。普段の生活の中にあるものにも放射線は含まれており、危険なイメージがありますが、先生のお言葉で“有益が害を上回る”というように、放射線はレントゲンなどの検査や治療に用いられており、私たちの健康を守るうえで大切なものだということを改めて感じました。



3年生 鎌田 ひかり

10月15日に学校祭の特別授業として、「放射線の性質と医療放射線被ばくについて」の講義をしていただきました。放射線に対して被ばくによる健康への影響に懸念を抱く患者さんが多いと思います。しかし、医療で用いる放射線治療では組織の感受性により線量を調節しており、X線検査やCT検査で得られる利益が被ばくによる不利益を上回っていることなどを教えていただきました。今回、講義で教えていただいた内容を放射線に対して不安や疑問を感じている患者さんに伝え、不安を軽減できるようにしていきたいと思います。



2年生 石原 愛莉

1年次に放射線の講義を受けた時は初めて耳にする単語が多く、言葉や意味を覚えるので精一杯でしたが、今回の特別講義は基礎的知識のある状態で受けることができたので、より自分の力になったのではないかと思います。放射線は実習でよく出会う言葉であり、患者さんに行う検査・治療でもあるため、もっと放射線の効果や体への影響について勉強しなければならないと感じました。また、放射線検査・治療に不安を感じている患者やご家族の方に対して、どのような説明をすれば不安を軽減できるのか今回の講義を活かして考えていきたいと思います。

1年生 山内 瑞葵

私は広島県出身で幼い頃から平和教育をうけてきたので、被爆者について考えさせられることが多く、放射線＝発がん率がとても高いという考え方でした。しかし今回の特別講義で、発がんの原因の半数以上を食物とタバコが占め、放射線被ばくに起因するものはわずか0.5%であることや、放射線治療は腫瘍にピンポイントにあてることができること、放射線治療の副作用として生じる放射線障害は一過性のものであり、重篤なものや二次性がんは稀であることを学び、放射線の実用性を知ることができました。今回学んだことを今後の勉強に活かしていきたいと思います。

69期生（2年生） ～浜田医療センターガイダンス～

2年生は、コロナウイルス感染拡大のため、臨地での実習経験が少なく、これから始まる領域別実習に対して大きな不安がありました。そこで、浜田医療センターの看護部の皆様が2年生へ向けて病棟ガイダンスを行っていただきました。



2年生 上田 かや乃

実際に働かれている看護師さんや浜看の先輩方が各病棟の特徴などについてパワーポイントなどを使いながら詳しく説明して頂けたのでとてもわかりやすく、就職活動や実習を控えている2年生にとってはとても良い機会でした。



2年生 伊藤 いよな

病棟ガイダンスに参加して、それぞれの病棟の特徴やどのような思いで患者さんと接しておられるのかなどがわかりました。実習前に病棟について知り、イメージを持つことができよかったです。現場で働いておられる方々のお話を聞いて、理想とする看護師になれるよう頑張りたいと改めて思いました。



69期生（2年生） ～2022年度浜田駅鉄道部総合事故対応訓練に参加して～

10月28日、JR西日本浜田列車支部、関連会社、浜田消防署、浜田警察署、浜田市役所による浜田駅鉄道部総合事故対応訓練に当校2年生48名が参加しました。

列車内で事件が発生し、負傷者が出たという設定で訓練が行われました。



2年生 寺戸 架歩

私は負傷者役として訓練に参加しました。何もかもが初めての体験でドキドキしました。

事前学習として刺されて出血が多かった時、どういう症状が現れるのかなど教科書を参考にしながら今回の訓練に備えました。犯人役の方の演技がとても上手で演技と分かっていてもびっくりしました。身近で非現実的なことが起こると声も出せず、すぐに行動に移すことができないと改めて訓練をして学びました。また、実際に傷つけられた人は、死への恐怖を抱いているのだと感じました。

私は、もしこのようなことが起こった時、負傷者の変化に気づき迅速かつ丁寧な処置をすることが必要だと思いました。また、少しでも不安や恐怖の気持ちを和らげられるように声掛けや背中をさすってあげるなどしていきたいです。



2年生 鵜飼 愛

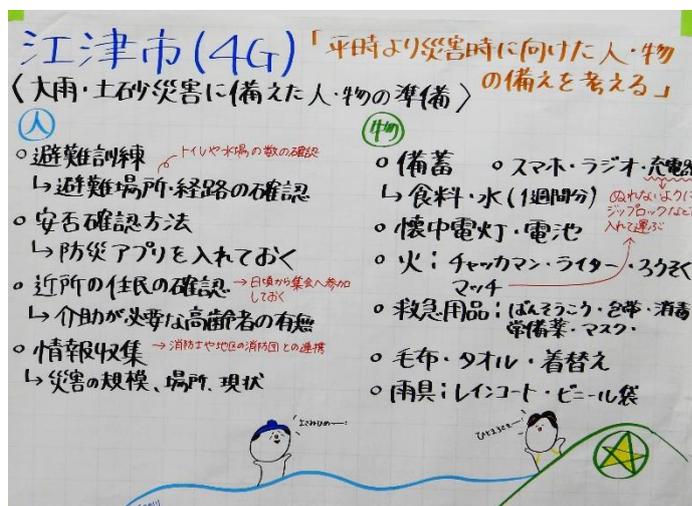
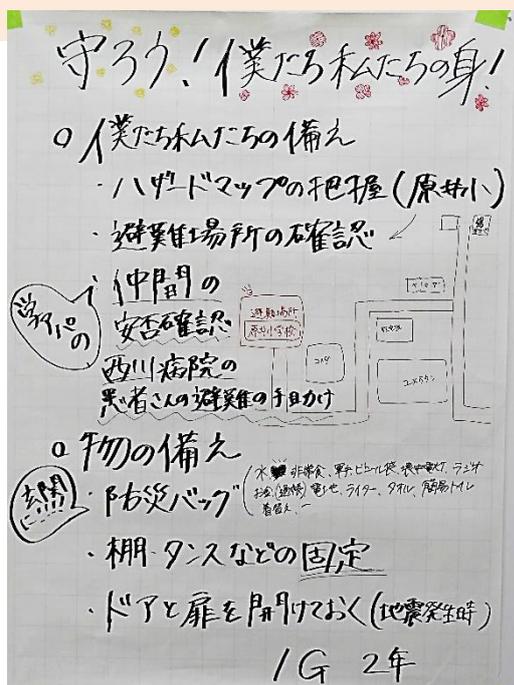
救護班として参加しました。訓練現場では混乱の中でなかなか指示が通らず、何をすればいいのかわからない状態でした。また、災害時の傷病者は少しの間でも身体の状態（バイタルサイン）が変化するため、そのサインに気づくことができるよう、短時間で患者を評価し続けることが大事だと分かりました。災害はいつ起こるかわからないため、その場に居合わせた時に看護学生として声掛けやバイタルの観察など自分にできることをすることが大事だと思いました。

～防災教育～

「平常時より災害時に向けた人・物の備えを考える」

防災や災害に対する意識を高め、地域での協力体制を整えることで迅速かつ安全に避難する方法、避難所等で健康を維持しながら生活するための備えを考えるという目的で、11月11日、浜田市 総務課 防災安全課 防災安全係の田原英一郎様に出前講座「浜田市の防災」(オンデマンド)をいただきました。

地震により津波が発生すると、浜田市周辺の多くの地域で津波による被害が想定されます。いざという災害時に備えて普段から地域・周囲の人とどのようなことをしておく必要があるか、避難場所、日程をどう想定して避難に向けて物の備えを考えると良いかなど、学生が居住している地域ごとにグループワークをしました。



1年生 藤田 あずみ

防災教育では、自分の住む地域にはどんな危険があるか、近くの避難場所はどこかなどを事前に知っておくことが重要な備えになるということが分かりました。日頃から災害を意識した生活が大切だと感じました。

1年生 高橋 ひなた

グループワークを通して災害時の備えを確認すると、自分の意識の低さを見直す機会になりました。医療従事者を目指す者として、自分の命だけでなく他人の命も守るためにできることを考えながら生活していきたいと思います。

3年生 三浦 沙希

避難の際に必要なものや避難する場所を再確認することができ、災害によりとるべき行動も変わってくるため、自分たちの住む地域で起こりうる災害と災害が起きた時にすぐ行動できるよう考えることができました。また私たちは看護学生として近所に住んでいる高齢者に必要なものや救助の方法も考えることができました。そして、日頃から地域との関わりを持ち災害に備えていきたいと思いました。

～70期生（1年生） ナーシングセレモニー～

令和4年12月9日、70期生のナーシングセレモニーを行いました。

1. 以前の「^{たいぼうしき}戴帽式」について

戴帽式は、看護学生が看護学校入学後一定期間の看護の基礎を履修し、その評価のもとに新たな決意をもって看護を職業として選んでいくひとつの区切りとして行われる儀式のことです。この発祥は、西欧で修道女がイバラの冠をかぶって、一生神に仕える誓いを立てたことに由来します。わが国では1920（大正9）年、聖路加病院に高等看護婦学校が発足した時から行われていますが、広く行われるようになったのは、戦後のGHQの指導によります。

当時看護学校においては、入学後6か月間を予科期間と称し、将来看護師としての適性を見ようとする意図がありました。そこで6か月を経た者に対して戴帽が行われました。現在はナースキャップが院内感染の原因になりかねないということで、臨床現場では、廃止になっているところが多く、浜田医療センターでも廃止になっています。

2. 当校でのナーシングセレモニーについて

当校では平成17年より、ナーシングセレモニーとして継続しています。この式では、戴帽はなくなりましたが、一人ずつ教育主事から^{しよくだい}燭台を受け取り、ナイチンゲール像から^{ともしび}灯を受け継ぎ、全員が壇上に上がった後、クラスで決めた「誓いの言葉」を述べ、専門職業人としての看護師へ成長していくことを誓います。その後学校長から詞があり、クラス代表がお礼の言葉を述べ、セレモニーは終了します。

^{ともしび}灯は、クリミア戦争でのナイチンゲールのランプを意味し、献身的な看護の精神を表しています。看護師を目指すものとしての職業に対する意識を高め、またその重さを自覚し、ナイチンゲールの精神を受け継ぐ一人となることを誓います。

【フローレンス・ナイチンゲール】

フローレンス・ナイチンゲールは、1853年にクリミア戦争に従軍しました。その際、ナイチンゲールは医師の診療の補助から病院内の清掃、洗濯、食事の提供など、傷病兵の療養生活全体の改善に取り組みました。軍人が傷病兵の看護管理をしていた頃の死亡率は42.7%でしたが、ナイチンゲールが赴任した6か月後には2.2%に激減しました。

彼女は、自分の時間はすべて兵士の看護に充て、夜間になるとランプを手に暗い廊下を見回りのために歩き回り、次から次へと患者の世話をしました。兵士たちは、闇の中から聞こえる足音に安らぎを感じ、彼女の尽きることのない深い思いやりに感動したといえます。癒された兵士たちは、ナイチンゲールのことを「ランプの貴婦人」と呼ぶようになりました。



ナイチンゲール像から灯を引き継ぎ、誓いの言葉を述べました

テーマ：^{なる}成～後継者になることを自覚し精進する～



誓いの言葉

私たち 70 期生は対象の命を預かる責任の重さを自覚し、対象の健康な生活の実現に貢献できることに誇りを持ち、常に成長を目指して努力し続けることを誓います

対象の変化やニーズに気づけるよう、
観察力を磨きます

対象の個性を尊重し、回復を促すために
根拠に基づいた知識と技術をもって、
チームや多職種と協力し、最善のケアを提供します

対象に寄り添うとは何かを常に考え行動します

対象と積極的にコミュニケーションを図り
安心していただけるように、
信頼を得られる看護師を目指します



3年生にコサージュをつけてもらいました



ご出席いただいた皆様にお礼の言葉を述べました

1年生 三上 千緩

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業が増え思うように練習できない日が続きましたが、クラス全員で力を合わせ良い式にすることが出来ました。クラス全員で誓いの言葉を述べた時、これから看護の道を歩んでいく者としての責任を持ち、決意を固めることができました。式の中では学校長をはじめ、たくさんの方から応援されていることを知りこれから更に頑張ろうという気持ちになりました。ナーシングセレモニーで誓った言葉、激励の言葉を忘れず、70期生全員で理想の看護師になれるよう努力していきたいと思います。

1年生 宮崎 七海

私はナーシングセレモニーの総括をさせて頂き、最初はみんなをまとめることが出来るか不安でした。そんな私にとって1番の支えだったのはいつでも笑顔で急な変更にも対応して前向きに頑張るクラスのみみんなでした。また、練習する姿を見て一人ひとりが思い描く理想の看護師像への思いが日を重ねる毎に大きくなっていくように感じました。本番前の円陣を組んだことやみんなと誓いの言葉を考えて述べたことなど、全てがかけがえのない思い出です。改めてこれからの日々の学習に励み、絶対に夢を叶えようと思えた時間でした。

68期生（3年生） ～地域包括における看護を考える～



3年生 K・Y

私は最後の実習で在宅看護論実習を行いました。地域包括ケアシステムは高齢者を支えるネットワークのことです。病院、訪問看護など活躍の場は様々ありますが、その中で看護師は医療とQOLの視点から利用者とその家族の知識、技術力、意欲、目標を確認・指導することが役割となります。自分がその人を支えるサービスの1つであり、その他サービスの目的を含め、この利用者さんにとって看護がどのように生活を支えているのか、支えていくのかを考えることがとても重要であると思っています。

5G: 浜田市の地域包括ケアの現状と課題「住み慣れた場所で最後まで」を実現するためのNsの役割

課題	看護師の役割
<ul style="list-style-type: none"> 交通面での不便さ すぐに病院に行けな距離じゃないから…… 病院が少なく、近くにない方もおられる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で症状の変化に気付けるよう、疾患の指導(症状や薬)をやる 異変を感じた時、すぐに行動できるように指導する(連絡先などの対応) 地域・近所同士のゆるやかな見守り サロンなどの参加を促し、地域住民同士の繋がりを広げる 受診時に疾患や身体だけを見るのではなく、その人を取り巻く家族や環境など生活面にも目を向け、早期発見に努める

3G コロナ禍における高齢者の見守り

<現状・課題>

- 浜田市の高齢化率 **37.7%**
- コロナ禍により地域での集まり(減)
 - ↳ 住民同士の関わりも(減)
 - 外出(減) → **引きこもり**

- 筋力低下**
 - ↳ 寝たきり
 - ↳ 車椅子に外出しなくなる
 - ↳ 転倒リスク(高)
 - ↳ 骨折 risk
- 認知機能低下**
 - ↳ 認知症発症・悪化
 - ↳ 内服管理困難
 - ↳ 持病悪化

ADL低下 介護が必要となる 孤独死

QOL低下

<必要となる看護師の役割>

地域	病棟
<ul style="list-style-type: none"> 看護師としてのゆるやかな見守り ↳ 少しの変化、しつこく違和感を伝える ↳ 民生委員や地域住民と情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんの生活背景を知る 患者さんが住み慣れた家で安心して暮らせるようになるにはどうしたらいいかの職種で連携し考える。

3年生 松原 真希

住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることは、その人の個性や尊厳を大切にする上で目指すべき姿である。私はこれまでの老年看護学実習や在宅看護論実習を通じて、病を抱えながらも自宅で過ごされている高齢者を見てきました。その暮らしを支える看護の役割として、医療や介護はもちろんのこと、生活支援や介護予防への取り組みについて実際の現場を見て学ぶことができました。高齢化社会の今だからこそ私も看護を通して地域に貢献していきたいと思えます。





～第 68 回 卒業式～

令和 4 年度 島根県私立専修学校優秀学生表彰 及び 学校長賞 を受賞して

3 年生 M・A

私は 30 代後半という年齢で看護師を志し、社会人入試を経て、3 年前に浜田医療センター附属看護学校に入学しました。

私は入学を迎えるにあたり、新たな自身への挑戦に対し、夢や希望、新たな人たちとの出会いに期待を感じる一方で、親子ほど年齢の離れたクラスメイトと本当にうまくやることができるだろうか、久しぶりの学習ということもあり、ついていくことができるだろうかなど様々な不安を抱えていました。そんな不安を抱えた状況で入学式を終えた矢先、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、クラスメイトとの交流も深めることなく、また、これからどのように学習していけばよいのかも分からないまま自宅学習へと突入しました。しかし、先生方や病院関係者の方々のご尽力により、早期に学習できる環境を整えて頂き、さらに、感染対策を講じることで登校も早期に再開できるような環境を整えて頂きました。学校が再開されると、グループワークなどを通して少しずつクラスメイトと交流を図り、その後、仲間研修・ナーシングセミナー・学習発表会・学園祭など様々な行事を通じてクラスメイトと絆を深めていきました。そして、クラスメイトとの交流が深まることで、自身の学習方法も少しずつ身に付けていくことができました。

私が入学した 3 年前、世界は未曾有の危機に直面し、私達も以前とは異なる新たな形をとらざるを得ない状況となり、戸惑いや不安が多くありました。しかし、そんな困難な状況においても、クラスメイトと共に考え、お互いを尊重しながら助け合い支え合うことで、以前とは異なる新たな形式での行事を作り上げることができ、また、様々な不安や辛さを分かち合うことで乗り越えることができました。

在校生の皆さんはこれから先、困難な状況に直面し、悩みや不安、つまずきなど様々感じることもあるかもしれませんが、周囲と協力・共有することで困難な状況でも乗り越えることができます。残りの学校生活がより良いものとなるよう、お互いに助け合い励まし合って様々なことを乗り越えていってほしいと思います。

3 年間の学校生活では、専門職としての知識や技術だけでなく、周囲の人たちと協力することの大切さなど多くのことを学ぶことができました。ここで過ごした 3 年間は私の人生においてかけがえのないものであり、とても貴重な経験となりました。本当に多くの人に支えられながら、卒業を迎えることができたことに感謝しております。今後は看護師として新たなステージへと向かいます。この学校で得た多くの方々との出会いに感謝すると共に、ここで得た学びを今後の看護実践へといかしていきたいと思っております。ありがとうございました。



～第 68 回 卒業式～

優秀賞を受賞して

3 年生 S・Y

この度は、優秀賞を賜りまして誠にありがとうございます。

入学当初は、現役生に遅れをとらないよう頑張っ勉強しようと考えていましたが、多忙な学生生活は想像以上に大変で、時には投げ出したい気持ちになったこともありました。その中で同期のみんなが自分のことを温かく迎え入れてくれたことが心の支えとなり、3年間頑張りが続けたことができました。今回の受賞にあたり、出会えた 68 期生のみんなに感謝を伝えたいです。

看護師としてのスタートラインに立った今、今後も学ぶ姿勢を忘れずに歩んでいこうと思います。

3 年生 K・Y

この3年間、講義を集中して聴講してきました。それが基礎となって実習や国家試験での看護の考え方に活かされたと思います。また、そのおかげで卒業時には優秀賞をいただくことができました。頑張りが形になった気がして、地道でしたが3年間の積み重ねが認められて嬉しく思います。

後輩の皆さんは、実習や試験について不安な気持ちがあると思います。先輩は皆さんが思っているよりも遠い存在ではありません。色んな知識や技術、全て皆さんが頑張った分だけ身につきます。私も卒業できるのが不安で堪りませんでした。しかし、不安な気持ちは“頑張らなくては…”と思っている証でもあると、3年間を振り返り思うようになりました。なりたい自分になれるよう、周りに頼って頑張ってください！

ご卒業

おめでとうございます!!



3月3日、第68回卒業式が行われました。3年ぶりに保護者様にご出席していただきました。

3年前の入学時は、コロナウイルス感染拡大によって入学許可のみとなりました。入学して間もなく自宅でのオンライン授業に切り替わり、7月まで登校できませんでした。保護者様もご心配だったと思います。

コロナ禍で制限されることも多い時期でしたが3年間よく頑張りましたね。

これからそれぞれの場所で68期生の皆様にご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

